

服作りで心豊かによりよく生きる価値共創プロジェクト

取組概要

●地域資源である遠州織物を活用した服作りを通じた、より良い暮らしのための環境づくりを目的に、個々のライフスタイルやライフステージに合わせた柔軟な働き方を提供することで、経済的な自立を目指せる環境を整えています。

●地域や人、モノごとのつながりを大切に、「暮らしに調和するエシカルなものづくり」を実施し、企業理念「えがおのたねまき」をテーマに、笑顔が広がる価値共創コミュニティを目指しています。



はじめたきっかけ

遠州織物を使った婦人服ブランドを立ち上げの際、疾患があることで職に就くことが困難な方に出会いました。子育て期に働きたくても環境がなく困った私の経験と重なり、服作りを通じて、働きたいときに働ける柔軟な仕組みを提供したいと強く思いました。この出会いがきっかけで、「ライフスタイルに寄り添う柔軟な働き方」をブランドの柱の1つに加え、地域資源を活かし、地域の人々の暮らしを支えるという思いで服作りに取り組んできました。

ポイント

(経済) 柔軟な働き方と地域の経済成長、(社会) 女性の社会参加とジェンダー平等、(環境) 地元産天然素材によるサステナブルな生産と消費という、三側面を意識して事業を行っています。また地域の多くのステークホルダーを巻き込みながら、地域産業の活性化と、個人の主体性を尊重した柔軟な働き方の提供と経済的な自立を促し、取組を持続可能なものとしています。

地域課題と取組成果

地域産業(繊維)を活性化させ、衰退を食い止めるための「産地らしさのブランディング」に貢献することで、課題解決を目指したいと考えています。「産地らしさのブランディング」とは、素材や製品の開発だけでなく、地域全体が一体となって、産地の価値や、ストーリーを共創する価値創造のプロセスです。この取り組みは、地域資源の活用と柔軟な働き方を提供することで持続可能です。将来的には、縫製技術の向上や品質強化を図り、未経験者向けの技術講習やスキルアッププログラムを導入します。さらに、自社ブランドの制作にとどまらず、地域で新しく生まれるブランドを支援し、地域全体の繊維産業の発展に貢献していきたいと考えています。育成とサポートを通じ、持続可能なビジネスモデルを確立していきます。

- 事業内容 クリエイティブコンサルティング
- 従業員数 1名

- 創業年 2021年
- HP URL <https://siisow.com/>

●遠州織物を使った婦人服ブランドを立ち上げた経緯を教えてください。

子どもの頃から縫い物が好きで、20代前半はイタリアやヨーロッパのテキスタイルを使い、ランチョンマットなどのテーブルウェアを作っていました。個性的な素材を探すなかで出会ったのが遠州織物です。

調べるうちに、遠州地域では海外のハイブランドにも採用される高品質な洋服生地が織られていると知り、その魅力に惹かれていきました。当時、地元の生地を使った服がほとんど販売していなかったので、「それなら自分で作ろう」と思い、ブランドを立ち上げました。



●「柔軟な働き方ができる環境づくり」を意識されていると伺いました。

当初は「商品作り」が目的だったのですが、それが二の次になってしまいました。いわゆる「障がい者雇用枠」や就労支援の制度があっても、「紹介先が無い」という理由で支援そのものを受けられない方もいます。つまり、“障がい者としても働ける環境がない”という現実には衝撃を受けたんです。働く意欲も才能もあるのに、治療費がかさむからこそむしろ働く必要がある状況で、社会に受け皿がないことを、すごくもどかしく感じました。

それなら、体調の良いときに仕事ができるような、その人に合ったライフスタイルを前提とした働き方をこちらで整えられないかと考え、「体調がいいときに仕事をする」という仕組みを提案しました。



●現在、アパレル事業の状況はいかがですか？

今は「続けること」が一番の目標になっています。立ち上げ当初は、百貨店での販売も1年に1回でしたし、資金的にも厳しく、本業のデザインの仕事からアパレル事業に資金を補填しており、事業の軌道がある程度見えてくるまで3年ほどかかりました。

デザインの仕事は生業ですが、アパレル事業は「生きがい」と言うと大げさですが、最初から「ビジネス」として始めたわけではなく、お金を生むことよりも「つながりを生み出す」ことを大切にしています。

「自分に合った働き方ができる環境が見つからない」という課題に対して、「個人の強みを活かした、ライフスタイルに合わせて柔軟な働き方ができる環境を作る」という仕組み作りについて、ある意味「実験」に近い感覚で、何も保証はないけれど、とにかくやってみることにしました。

試行錯誤を続けるなかで、自分の取組が結果的にSDGsに通じるものだと気付かされました。

●SDGsについてはご存じだったのですか？

以前、仕事でSDGsについて調べる機会がありました。ただ当時は、環境問題などの取組は国や大企業がするものというイメージが強く、自分には遠い話だと思っていました。しかし、ここ数年でSDGsが普及し、生活者レベルで言語化されているのを見て、「私がしていることもSDGsに当てはまるのかもしれない」と思うようになりました。

仕事を依頼するとお金が発生します。私たちは、単に仕事を依頼して報酬を払うだけではなく、それぞれが持つスキルをシェアすることで新たな価値を生み出せると考えています。人それぞれの才能や可能性をうまく活かして、経済的にも成り立つしくみをつくりたいと思っています。

